

登録コード	UAF12500	開講年度	2026				
授業題目	比較教育学演習					担当教員	林 寛平
						副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・2時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学						
	【心理・長野臨床以外】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。					⇔	
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理・長野臨床】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。					⇔	
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。					⇔	
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。					⇔	
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。					⇔	
(2)授業の概要	本授業では、資料収集、調査等の演習を通じて「比較教育学」の理論と歴史、方法論を学ぶとともに、その視点から世界各国の学校教育制度とカリキュラムが子供の心理面と身体面の発達及び学習の過程に与える影響について分析する手法を学習する。						
(3)授業計画	第 1 回：オリエンテーション 「比較教育学」の成り立ちと射程 第 2 回：ISCEDの読み方、表し方ー子供の心理・身体の発達の国際比較と照らしながら 第 3 回：文部科学省様式による学校系統図の作成(1) 特定の国の学校制度を調べる 第 4 回：文部科学省様式による学校系統図の作成(2) 学校系統図をまとめる 第 5 回：各国の学校制度とカリキュラム(1) スウェーデンにおける学習・発達観の特徴 第 6 回：各国の学校制度とカリキュラム(2) 日本における学習・発達観の特徴 第 7 回：地域研究と比較教育学 第 8 回：二国間比較における成果と留意点 第 9 回：トマス&ブレイ・キューブを用いた二国間比較 第10回：大規模国際アセスメントの成り立ちと特徴 TIMSS, PISA, PIRLS, PIAAC, TALIS 第11回：大規模国際アセスメントの結果から各国の教育の特徴を調べる 第12回：大規模国際アセスメントの結果から各国の学力政策の特徴をまとめる 第13回：国民国家と教育ー発達と学習に関わる社会理論 第14回：教育の輸出戦略から問い直す世界システム論 第15回：発達と学習を商材とする教育産業の新たな展開(レポート課題提出) 期末試験の有無 無						
(4)成績評価の方法	成績評価はレポート課題(100%)とする。課題は①地域研究②二国間比較③多国間比較から一つ選択し、特定のトピックについて学校制度やカリキュラムの特徴を述べたうえで比較教育学の視点から分析したレポートを提出してください。得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	・各国の教育制度の情報を正確かつ適切に収集でき、ISCED等の統一形式の意義を理解し、目的に応じて比較対象のレイヤーを揃えて的確に分析できる場合には「卓越している」と評価する。 ・各国の教育制度の情報を収集でき、ISCED等の統一形式の意義を理解し、目的に応じて比較対象のレイヤーを揃えて的確に分析できる場合には「かなり上にある」と評価する。 ・ISCED等の統一形式の意義をおおむね理解し、目的に応じて比較対象のレイヤーを揃えて分析できる場合には「やや上にある」と評価する。 ・ISCED等の統一形式の意義をおおむね理解し、比較対象のレイヤーを揃えて分析できる場合には「その水準にある」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	Web (eALPS) 上にアップロードされた授業資料を適宜ダウンロードして予習復習を行うこと。特に、各回で指定するキーワードに関しては各自で授業前に説明できるように調べておくこと。						
(7)履修上の注意	この授業に関する連絡事項等は原則としてeALPSシステムを使って行うため、登録メールアドレスに着信するメール内容を随時確認すること。 受講者に日本語以外の話者がいる場合には、英語で授業を開講する。レポートは日本語での提出も可とする。 ・総合人文社会科学研究科の院生が受講する場合のみ開講します。 ・教育実習等で欠席する場合には個別に代替措置を講じますので、必ず十分に前もって相談してください。事後の対応には応じられない場合があります。（学部授業を科目等履修する場合には、教職大学院の授業が優先されます） ・授業アンケートの依頼がある場合にはご協力をお願いします。						

(8)質問,相談への 対応	事前にメールでアポイントメントをとってください。 林研究室＝教育学部 N307研究室（電話：026-238-4203） メール＝kampei@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	長島啓記編『基礎から学ぶ比較教育学』学文社、2014。(ISBN:4762024554)ほか
【参考書】	マーク・プレイ他編『比較教育学研究－何をどう比較するか』上智大学出版、2011。